



2019-5-7 No.29 (2019 vol. 1)

日本情報科教育学会

Japanese Association for Education of Information Studies

事務局：〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323 埼玉県立大宮高等学校
E-mail jaeis-jimu@jaeis.org <http://jaeis.org/>

会長就任のご挨拶

九州工業大学 西野 和典

会員の皆様におかれましては、平素より、学会の活動や運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年末に開催された通常総会にて、私は本学会の会長に就任することになりました。その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いです。

さて、本学会は2007年12月に設立されましたので、今年で12年目を迎えます。この間、情報科教育を専門に研究する唯一の学会として、情報科教育の在り方を検討し、教育課程や教育内容・方法・評価等の研究成果を発信し続けてきました。この機会に、今後の学会活動を展望するため、現在の社会と教育の状況を振り返ってみたいと思います。

近年、高度な情報技術と情報インフラの整備により、社会が大きく変動しつつあります。あらゆるモノがインターネットに繋がり、現実空間から大量で多様なデータがサイバー空間に収集・蓄積され、人工知能によって解析されて付加価値の高い情報として現実空間の課題解決に活用されるような社会が現れつつあります。このような情報技術の革新により、経済や産業、文化、生命や環境など、あらゆる社会システムにおいて歴史的転換の時期が訪れています。

このように変動の激しい社会を生きる若者を学校教育でどのように育成するか、この12年間に2度の学習指導要領の改訂があり、初等中等教育における情報教育は大きく変化しています。特に今回の学習指導要領の改訂では、情報活用能力は、言語能力とともに教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される力とされ、情報教育では、情報技術を活用して問題を発見・解決する資質・能力を育成する学習が求められるようになりました。

具体的には、2020年度から小学校でプログラミング学習が必修化され、教科の授業だけでなく教科外の教育活動においてもプログラミング的思考の育成が始まります。中学校では、これまでの計測・制御のプログラミングに加えて、ネットワークを活用した双方向性のあるコンテンツ制作のプログラミング学習が行われます。高校の情報科においては、卒業後の進

本号目次

学会長挨拶	1	報告 第12回研究会	6
全国大会実行委員長挨拶	3	報告 各支部・情報教育合同研究会	7
報告 第10回フォーラム	4	事務局からの連絡	12
報告 第11回研究会	5		

路を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが重要とされ、共通必修科目として「情報Ⅰ」を設け、さらに選択科目として「情報Ⅱ」を積み上げることになりました。モデル化とシミュレーション、プログラミング、情報デザイン、情報システム、データサイエンス等、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を行います。

一方、2018年6月の未来投資会議で、大学入試においても、国語、数学、英語のような基礎的な科目として「情報Ⅰ」を追加する方針が示され、2024年度に実施される大学入学共通テストで「情報Ⅰ」の導入が検討されています。

このように、初等中等教育における情報教育の重要性と、学習内容の高度化が鮮明に示されています。本学会としては、これまでと同様に、会員の研究に資する情報提供や情報交流、研究発表の場を提供する等の役割を果たしつつ、学校での新しい情報教育の推進に資する社会的役割を果たしていきます。新しいカリキュラムや教材の開発、授業研究を推奨し、さらには教員の養成や研修等、教育行政や学校現場からの期待に応えるとともに、その活動を研究にフィードバックする実践的研究の方法論も大切にしていきたいと考えています。

このような情報教育の実践的研究や活動では、初等中等教育から高等教育に亘る情報教育の接続性を意識することが肝心であり、情報学と教育学、研究者と実践者、国内と海外、若手とベテラン教員が相互に交流し、多面的で多様な観点から体系的な情報学教育を検討し、更新し続けることを大切にしたいと考えます。また、情報教育の優れた教材を提供する企業、環境を整備する教育行政、情報教育を推進する他学会との連携も欠かせません。

引き続き、情報科教育の研究を推進するために、年2回の全国規模の研究会（4支部で持ち回りで担当）、各支部での研究会開催等の活動、全国大会やフォーラム等の企画・実施、学会誌の編集・刊行を行います。また、学会誌に掲載された論文は広くJ-STAGEで公開し、会員の皆様の研究成果を広く発信することを、新たに計画しています。さらに、委員会活動では、「教材研究・教育実践委員会」を新設し、情報科の教材および教育方法の開発、実践、評価・検証等の活動を加速します。また、「教員養成・研修委員会」を設け、教員養成の在り方やカリキュラムを検討するとともに、プログラミングなど新教育課程で高度化した学習内容に対応するための教員研修に貢献する等、社会的要請にも応えられる学会を目指します。

このような情報科教育の研究を一緒に推進する仲間を増やしたいと思います。本ニューズレターでの情報発信をはじめ、学会のWebページを充実させるとともに、研究会や全国大会、支部での諸活動等、あらゆる機会を通じて本学会を広報し、関心を示される方へ入会を勧めます。

現在、課題が山積している状況ではございますが、本学会の発展に微力を尽くす所存です。今後とも、皆様、学会の諸活動に対して積極的にご参画いただき、全員の力を結集して学会を発展させて参りたいと存じます。引き続き、皆様からのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第12回全国大会実行委員長挨拶

北九州市立大学 浅羽修丈

この度、日本情報科教育学会第12回全国大会を、北九州市立大学で開催することになりました。新体制となった本学会の最初の全国大会を、九州の玄関口である北九州の地で開催できることを嬉しく思います。

情報科教育は、新しい時代を迎えようとしています。小学校では2020年度、中学校では2021年度、高等学校では2022年度から新学習指導要領が順次適用され、情報活用能力（情報モラルを含む）が言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」として位置付けられます。2024年度には、大学入学共通テストから情報科が新科目として出題される方針も出されています。情報科教育の重要性が高まってきた今だからこそ、初等・中等・高等教育機関が連携して、新しい情報科教育を構築していくことが求められます。このような背景から、本大会では「初等・中等・高等教育をつなぐ新しい情報科教育の構築」というテーマを掲げました。各教育機関の教科等の“横断的な視点”からの連携だけでなく、初等・中等・高等教育機関をつなぐ“縦断的な視点”からの連携を、本学会がリーダーシップをとって進めていくというコンセプトが含まれています。

このテーマを前に推し進めるためには、情報科教育に携わる多くの方々との議論や情報交換が必須です。2019年7月20日（土）と21日（日）が、その礎となる充実した2日間となることを期待しています。多くの方々のご参加を、心よりお待ち申し上げます。

■ 開催日時：2019年7月20日（土）～21日（日）

■ 開催場所：北九州市立大学 北方キャンパス 北九州市小倉南区北方四丁目2番1号

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/access/kitagata.html>

■ 第12回全国大会テーマ：初等・中等・高等教育をつなぐ新しい情報科教育の構築

■ 参加費

・正会員／協賛会員 2,500円（当日3,000円）

＊初等中等の教職員1,500円（当日2,000円）

・学生会員 500円（当日1,000円）

・非会員 3,500円（当日4,000円）

■ 大会Webサイト

<https://jaeis-org.sakura.ne.jp/jaeis2019/>

■ 各種期限

・研究発表申込および講演論文原稿提出：2019年6月16日（日）

・参加・懇親会申込および振込：2019年7月5日（金）

※ プログラムや申し込み先等の詳細情報は、大会Webサイトをご覧ください。



北九州市立大学

日本情報科教育学会 第10回フォーラム

関東・東北支部 尾崎知伸

2018年12月24日（月、祝）日本大学文理学部において、関東・東北支部の支援の下、「新しい情報科教育の実施に向けて」をテーマに第10回フォーラムを実施しました。参加者は41名でした。

フォーラムプログラム

日時：2018年12月24日（月、祝）

場所：日本大学文理学部 百周年記念館国際会議場

14:10 開会の挨拶

14:20 講演「新しい情報科教育の内容と教員研修」

鹿野 利春

（国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

（併）初等中等教育局情報教育・外国語教育課程情報教育振興室教科調査官

初等中等教育局参事官（高校担当）教科調査官）

15:20 休憩

15:30 パネルディスカッション

「初等中等教育での新しい情報教育と教員研修」

司会 西野和典（九州工業大学）

パネリスト

豊田 典子（S&N Information Limited）

佐藤 万寿美（兵庫県立伊丹北高等学校）

岡本 雄樹（アシアル株式会社）

西川 忠行（株式会社FUJITSUユニバーシティ）

17:00 終了

開会の挨拶の後、文部科学省の教科調査官である鹿野利春先生に「新しい情報科教育の内容と教員研修」というタイトルで 招待講演を頂いた。講演では、プログラミング教育の位置づけや、育成すべき資質・能力について、改めてご紹介頂いたのち、小学校や中学校・高等学校における情報教育の特徴や内容及び大学一般教養への接続性についてご講演頂いた。また、情報科入試に向けた動きや今後のスケジュールが示され、現在の課題と今後の対応について丁寧にご説明頂いた。

その後のパネルディスカッションでは、教員研修を中心的な話題とし、多様な背景を持つ各パネリストがそれぞれの視点から見解を述べ、参加者を含めた討論を行った。

招待講演、パネルディスカッション共に活発な意見交換が行われ、有意義な会となった。ご出席いただきました皆様と、準備等を担当いただきました研究委員会の皆様、関東・東北支部の皆様に感謝申し上げます。

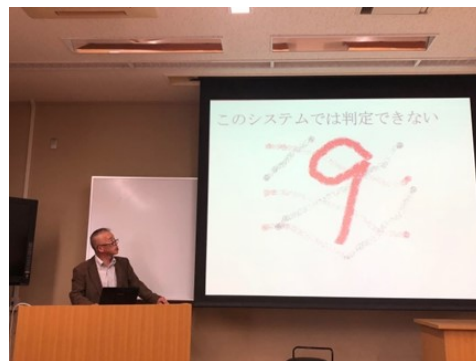


研究会の様子

日本情報科教育学会 第11回研究会報告

九州・中国・四国支部 池田 勇

2018年11月4日（日）、広島大学東千田キャンパスにおいて、下記のように第11回研究会を実施した。研究会の参加者は約30名であった。



口頭発表の様子

プログラム

日 時 2018年11月4日（日）

場 所 広島大学東千田キャンパス総合校舎（S棟）

13:20～ 開会あいさつ

13:30～ 研究発表

1. 保育所の保護者への情報モラル指導は必要なのか
- 1歳児・5歳児クラス的生活調査を通じて -
池田勇（植木保育園）、西野和典（九州工業大学）
2. スポーツ系学生の大学初年次教育科目（コンピュータ演習Ⅰ）内での
情報教育に対する意識調査と考察
庄司一也（帝京平成大学）
3. Javaを活用した、教員免許状更新講習における環境工学の授業報告
- ITの活用と未来の教育に向けて -
香川治美（九州産業大学）、土肥明（九州大学）、有馬信一（九州産業大学）
4. AIを授業で扱ってみた - 文字識別システムの構築と読み取り実験 -
山下裕司（岩国高校）
5. 小学校プログラミング必修化の現状と小学校英語導入・教授法等の応用
豊田典子（東京家政大学児童教育学科）
6. 「micro:bit」プログラミングで学ぶ情報技術の教材および教員研修
高橋参吉、喜家村奨、稲川孝司（帝塚山学院大学）、西野和典（九州工業大学）

15:30～ 休憩

15:45～ ラウンドテーブル（共催：教科教育・教員養成検討委員会）

テーマ：「プログラミング教育導入と教員養成・研修」

17:00～ 終了

口頭発表の6件は、保育所・小学校・高校・大学・教員研修と幅広い研究発表が行われた。各発表では質問応答が大変活発に行われ、休憩中や終了後も議論は続いた。

ラウンドテーブルでは、教科教育・教員養成検討委員会との共催で実施した。山口大学の阿濱先生が司会・進行を務め、「プログラミング教育導入と教員養成・研修」をテーマに活発に議論を行った。

研究会の準備を担当して頂いた広島大学の岩田先生、ならびに会場をご提供頂いた広島大学に感謝申し上げます。



研究会の様子

日本情報科教育学会 第12回研究会

関東・東北支部 尾崎知伸

2019年3月23日（土）日本大文理学部において、関東東北支部の支部大会と並行し、第12回研究会を実施しました。研究会の参加者は38名でした。

プログラム

日時：2019年3月23日（土）

場所：日本大学文理学部 百周年記念館国際会議場

13:30 ～ 開会あいさつ

13:35 ～ 口頭発表

1. 情報科教育における連想法を用いた授業評価フレームワーク活用の一検討
梅本雄史、田中賢一、上蘭恒太郎（長崎総合科学大学）
2. 教科「情報」における学習者による最終成果物の真正な評価を目指したPBLの授業設計
田中将哉、佐藤克己、宮寺庸造（東京学芸大学）
3. プログラミング学習における課題ごとの仕様に応じた自動採点システムの開発
西川直志、川口翔大、宮寺庸造（東京学芸大学）
4. 移行期間に向けた情報Iの年間カリキュラムと教材の実践と試作
太田 剛（千葉県立袖ヶ浦高等学校/市川南高等学校）
5. ICTを活用したアクティブラーニングに関する教職員研修の意識調査
伊藤大河（共栄大学）、松本真由子、山本利一（埼玉大学）

15:30 ～ ラウンドテーブル

テーマ「プログラミング教育時代の情報科教育の課題と展望」

（関東・東北支部 および 教科教育・教員養成検討委員会）

16:50 ～ 閉会あいさつ

東海大学の坂田先生が司会・進行を務めた5件の口頭発表では、それぞれ、連想法による授業評価、PBLにおける最終成果物の真正評価、プログラミング学習における自動採点システムの開発、移行期間に向けた情報Iの年間カリキュラムと教材の提案、アクティブラーニングに関する教職員研修の意識調査を研究テーマとしており、各発表において活発に質疑応答が行われた。

一方、ラウンドテーブルは、新学習指導要領においては、小学校にプログラミング教育が導入されること、中学校では双方向通信について学習することが求められることを背景に、色々な立場で情報科に携わっておられる学会員・参加者間で意見を交換し、情報科に関わる課題や展望に関して情報を共有する場を提供することを目的に、今回は「プログラミング教育時代の情報科教育の課題と展望」をテーマに、関東・東北支部と教科教育・教員養成検討委員会との共催で実施した。山口大学の阿濱先生が司会・進行を務め、2グループに分かれて非常に活発な議論が行われた。

このように、口頭発表、ラウンドテーブルそれぞれで活発な意見交換が行われ、有意義な会となった。ご出席いただきました皆様と、準備等を担当いただきました教材研究・教育実践委員会、関東・東北支部の皆様にご感謝申し上げます。

東海・中部支部総会並びに研究会

東海・中部支部長 矢野宏彦

2019年2月16日(土)に、浜松アクトシティ研修交流センター401号室にて、平成30年度情報科教育学会 東海・中部支部総会並びに研究会が開催されました。当日参加の方も含めて約30名が参加されました。

東海・中部支部では、近年総会及び研究会の開催を、一昨年度は岐阜県、昨年度は愛知県、本年度は静岡県と各県で実施しています。来年度は三重県で開催される予定です。本年度の会場の浜松アクトシティ研修交流センターは、JR浜松駅に至近の場所にあり、参加にはとても便利な場所でした。遠く長野県からは新幹線東京経由で参加されたり、中央線名古屋経由で参加されたりしていただきました。また、地元静岡県のみならず、岐阜県、愛知県、三重県の各県からも参加がありました。さらに、近畿・北陸支部からは、支部長の高橋参吉先生にもご参加をしていただきました。会場を設定していただきました、静岡県の役員の高橋等先生、永田奈央美先生のご尽力に深く感謝いたします。

当日の日程は、13時より役員会がありましたが、駅に着いて「浜松餃子」を楽しんでいた、わたくし支部長が遅刻するなどアクシデントもありました。

13時30分からの総会がつつがなく済み、14時30分からは、香山瑞恵先生より、昨年の海外研修で見聞してこられた、「イギリスにおける情報教育」の現状をご講演いただきました。私自身コンピュータサイエンスの分野が進んでいると聞いていたイギリスですが、先生のお話を伺う中では、まだまだ苦しんでいる部分もあるのだなと認識したところに、目からうろこが落ちる思いを感じました。

後半の発表では、愛知教育大学大学院の古本知大先生、愛知県立大学大学院に通われている愛知県立衣台高等学校の井手広康先生に、「モデル化とシミュレーション」についての発表をしていただきました。両先生ともに深く研究をされており、次期学習指導要領「情報Ⅰ」にも関係する分野でもあり、発表後も、また、夜の懇親会の席上でも研究を「情報Ⅰ」にどのようにつなげていくかなど、盛んに討論が行われました。

最後に、蛇足ですが、総会・研究会終了後の懇親会では、太平洋でとれた40cm強のタイの煮付けがお料理にでて、一同感嘆するなど、最初から最後まで充実した一日を過ごすことができました。なお、当日の日程は以下の通りです。

プログラム

13:00 ～ 受付開始・役員会

13:30 ～ 総会

14:30 ～ 講演 「初高中低 Computing 初上中良 情報教育」

香山 瑞恵先生 信州大学工学部情報工学科

15:50 ～ 発表「モデル化とシミュレーション～MASを用いた実践を通して～」

古本 知大先生 愛知教育大学大学院発達教育科学専攻情報教育領域

16:20 ～ 発表「専門情報科目「課題研究」における

社会シミュレーションの導入と評価」

井手 広康先生 愛知県立衣台高等学校 愛知県立大学大学院情報科学研究科



講演の様子

第14回情報教育合同研究会報告

日時：2018年11月24日(土) 10:00～16:40

テーマ：待ったなしのプログラミング教育 ーするの？逃げるの？挑戦するの！ー

会場：園田学園女子大学 情報教育センター

共催：情報コミュニケーション学会情報教育特別委員会・兵庫県高等学校教育研究会情報部会

大阪府高等学校情報教育研究会・日本情報科教育学会近畿・北陸支部

教育システム情報学会関西支部・情報教育学研究会(IEC)

氷上情報教育研究会・Logoに学ぶ会Neo

後援：兵庫県教育委員会・尼崎市教育委員会・園田学園女子大学

1. 報告

次期学習指導要領の実施に向けて、プログラミング教育の導入に向けた準備は待ったなしになってきました。小学校からのプログラミング体験に始まり、中学校、高等学校と一貫したプログラミング教育が展開され、特に高等学校の情報Ⅰ・Ⅱではプログラミングが学習内容の核となっています。まさに、日本の情報教育の柱として「プログラミング」が位置付けられたこととなります。これを契機に、教員対象の研修会も開催されていますが、幼児向けの知的玩具、様々なプログラミングツールの登場、小学生対象のパソコン塾等、世の中にはにぎやかで混沌としています。その反面、学校では他人事のような冷めた感もあり、温度差が感じられます。今回の研究会では、本当に「するの？逃げるの？挑戦するの！」と自らに問いかけながら、プログラミング教育実施に向けたノウハウとエネルギーを蓄積していただければと企画しました。当日は115名のたくさんの御参加をありがとうございました。プログラムの詳細は次の通りです。

2. プログラム詳細

【ワークショップ詳細】（同時開催 10:00-11:50）

1. アクティブラーニングによる災害に役立つアプリ設計（運営責任者 江見 圭司（京都情報大学院大学・情報教育学研究会(IEC)）・中西 祥彦（情報教育学研究会(IEC)））

【内容】プログラミング教育の先にあるのは、ソフトウェアを作ることです。ウェブ形式でアプリ開発を行うことを想定して、災害に役立つアプリを設計する方法を2、3人チームでアクティブラーニング形式で行うワークショップを行います。1時間半程度のハッカソンで、最後に各チームPowerPointで成果物を発表してもらいます。画面共有などはZOOMを利用する予定です。チーム演習です。

2. タブレット端末でビジュアルプログラミング（運営責任者 小田桐 良一（園田学園女子大学））

【内容】手描きした「絵」を自分で決めた「置き換え規則」に従って動かすビジュアルプログラミング環境（Viscuit）を用いたプログラミング体験を通じて、コンピュータや情報の本質を直感的に理解できるようになることに焦点を当てます。Scratch等のブロックを組み立てていく手法とは違い、動かす距離や向きも数値ではなくビジュアルで指示するなどアプローチは異なりますが、違いを知ることで「プログラミング＝手順を考える＋コンピュータに伝える」を捉えていきます。じゃんけんゲームのプログラム作成を通じて、論理的な思考力の育成について考えます。



研究会の様子

3. micro:bitプログラミング（運営責任者 高橋 参吉・喜家村 奨（帝塚山学院大学））

【内容】micro:bitは、手のひらサイズのコンピュータで、ビジュアル言語で簡単に利用でき、結果はシミュレータで確認できます。また、LEDなどの各種センサーやスイッチボタンがあり、Bluetoothによる無線通信も可能です。さらには、JavaScriptに変換できます。このワークショップでは、LED表示のプログラム作成によりプログラミングを体験した後、じゃんけんゲームのプログラム作成を通じて、論理的な思考力の育成について考えます。



研究会の様子

4. LogoとScratchで新しい言葉の作り方とオブジェクト指向を学ぼう（運営責任者 Logoに学ぶ会Neo（代表：山本 恒））

【内容】この2つのアプリケーションは見かけは全く違いますが共通点がたくさんあります。Logoは言葉で、Scratchはブロックでコードを書きますが、両者を比較しながら学ぶといろんなことがよく見えてきます。例えば、新しい言葉を定義するには、Logoではあたりまえのことなのですが、Scratchでは「その他」に含まれる「ブロックを作る」を使います。逆にScratchではオブジェクトに対してプログラムを書くのが当然ですが、Logoでは書く場所が奥にあって共通の手順エリアに書いてしまうことが多いです。今回は、動きのある風景を題材にして、新しい言葉の作り方とオブジェクト指向を学びます。初めての方でもこれらの世界を楽しく体験できます。

5. 並列処理を中心にしたScratchとmicro:bitプログラミング（運営責任者 竹中 章勝（奈良教育大学・奈良女子大学）・稲川 孝司（畿央大学））

【内容】近年プログラミング環境が大きく変わり、教育現場でも利用が進んでいるプログラミング言語「Scratch」でも並列処理やオブジェクト指向のプログラミングが可能になっています。これらのスキームを理解させるために、どのような教材でどのように教えたらいいか、Scratchとmicro:bitを使って実際に授業などで扱っている例を示し、プログラムを作成しながら、これからのプログラミング教育の在り方を共に議論していきます。



研究会の様子

【全体会】（13:00-16:40）

<講演Ⅰ>13:05～13:55

「新学習指導要領における情報教育」

国立教育政策研究所 教育課程研究センター教育課程調査官（併）文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課 情報教育振興室教科調査官 文部科学省初等中等教育局参事官
（高校担当）教科調査官 鹿野 利春 先生

<講演Ⅱ>14:25～15:45

私からの提案（各20分）14:25～15:45

- ① 江見 圭司（京都情報大学院大学）「小中高の理数関連教科で連携させたプログラミング教育の提案」
- ② 高橋 参吉・喜家村 奨（帝塚山学院大学）「小学校から高校までの一貫したプログラミング教育の提案」
- ③ 中植 正剛（神戸親和女子大学）「小学校プログラミング教育で考えておきたいこと」
- ④ 米谷 繁（兵庫県教育委員会）「教育行政からみるプログラミング教育（教育の情報化とスマート社会）～BYODで家庭と学校で情報活用能力を育成しよう～」

<ディスカッション>15:45～16:30

「待ったなしのプログラミング教育 ーするの？逃げるの？挑戦するの！ー」

〔司会者〕山本 恒 先生（園田学園女子大学名誉教授・ICT活用教育研究所）

〔総合司会〕佐藤 万寿美（県立伊丹北高等学校）

今年3月に新学習指導要領が告示され、新科目「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」の内容が明らかとなった。さらに小中高等学校教育におけるプログラミング教育については、小学校におけるプログラミング教育の手引き（第2版）が公開されるなど、育成すべき情報活用能力の具体が明らかになってきた。今回はテーマをプログラミングに絞り、小中学校の教員が参加しやすいワークショップが開催され、昨年以上の多くの参加者となった。

（報告者：垣東弘一・佐藤万寿美）



研究会の様子

近畿・北陸支部講演会及び研究会の報告 2019年3月24日 帝塚山学院大学

2019年3月24日（日）に、帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパスにおいて、本学会近畿・北陸支部講演会及び研究会が、帝塚山学院大学と共催で開催されました。参加者は、予約は30名でしたが、40名以上の方が参加されました。

午前の支部理事会・総会に引き続き、昼休みには企業展示が行われ、日本アイビルソフト、アーテックの製品の展示、帝塚山学院大学の教材展示（情報教育教員研修講座で利用したmicro:bitの教材）が行われました。

午後の講演会では、「初等・中等教育におけるプログラミング教育」をテーマとして、西野先生からは、Society5.0の話から始まり、今求められている情報活用能力、そして小学校でのプログラミング教育、さらにそれに続く、高校における情報教育の事例など幅広い話をしていただきました。天良先生からは、高校における新学習指導要領情報科の全般の話から始まり、情報Ⅰ・情報Ⅱの具体的な内容や共通テストに関連する話などもされました。また、遺伝的アルゴリズムに関連した実習事例について詳しい内容も報告されました。

後半の発表では、平田先生から「思考力・判断力・表現力」を評価する方法について、プレゼン指導を例に実践されている「学びのポートフォリオ」についての紹介がありました。喜家村先生からは、一昨年の支部講演会で行ったScratch2.0の並列処理機能の問題点について、Scratch3.0でも検証を行い、同じことが言えると報告されました。プログラミングを指導する教員は、この問題点を理解していることが大切と強調されています。

なお、当日のプログラム内容は以下の通りです。

プログラム

- 近畿・北陸支部理事会・総会
- 企業展示（日本アイビルソフト、アーテック、帝塚山学院大学）
- 講演会・研究会
 - ・挨拶 高橋 参吉（近畿・北陸支部長）
 - ・講演会

テーマ：「初等・中等教育におけるプログラミング教育」

司会 稲川 孝司（帝塚山学院大学、畿央大学非常勤講師）

西野 和典（九州工業大学、日本情報科教育学会会長）：

「情報活用能力とプログラミング的思考」

天良 和男（東京学芸大学）：

「連携と接続を意識した情報科教育」

- ・休憩（企業展示）

- ・研究発表

司会 佐藤 万寿美（兵庫県立伊丹北高等学校）

平田 篤史（大阪府立東百舌鳥高等学校）：

「情報科における学習評価の実践と課題」

喜家村 奨（帝塚山学院大学）：

「プログラミング教育のためのScratch3.0の並列処理機能の検証」

- ・挨拶 武村 泰宏（近畿・北陸支部・次期支部長）



企業展示の様子



開会の挨拶の様子

事務局からの連絡

事務局からの連絡

- ・所属等の変更のある方は、至急、ご連絡ください。
- ・会費未納の方は、会費の納入をお願いします。年会費が未納の場合、学会誌に投稿できない、学会誌が送られない、また、全国大会や研究会（研究委員会主催）での発表ができないなどの措置がとられます。

金額等については、下記でご確認ください。

<http://jaeis.org/nyukai/>

会費振込口座

【金融機関名】 ゆうちょ銀行

【口座種別】 振替口座

【口座番号】 00190-1-317944

【加入者名】 日本情報科教育学会（ニホンジョウホウカキョウイクガッカイ）

【金融機関名】 三井住友銀行 高田馬場支店(273)

【口座種別】 普通預金口座

【口座番号】 4435574

【口座名義】 日本情報科教育学会（ニホンジョウホウカキョウイクガッカイ）

※ 振り込み手数料につきましては大変恐縮ではございますが、各自ご負担戴きますようお願い申し上げます。

日本情報科教育学会ニューズレター No. 29 2019年5月7日

発行所 日本情報科教育学会事務局 <http://jaeis.org/>

〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323 埼玉県立大宮高等学校

E-mail jaeis-jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長：高橋 等（静岡産業大学） 副委員長：坂田 圭司（東海大学）

委員：笈 捷彦（NPO法人情報オリンピック日本委員会理事長） 永田 奈央美（静岡産業大学）

青山 貴史（福岡県立新宮高等学校） 後藤 隆彰（東洋大学）

齋藤 ひとみ（愛知教育大学） 尋木 信一（有明工業高等専門学校） 池田 勇（植木保育園）